

令和7年度 学校評価アンケート結果分析

＜考察と課題＞

保護者アンケートより

- ・保護者のアンケート結果では、教育方針や教職員の対応、保護者との連携等、学校教育の重要な内容に関して肯定的に高い評価をいただいた。また、ほとんどの項目で、昨年度と比べて肯定的な評価の割合が増え、改善傾向がうかがえる。
- ・教育方針や教育活動の自己評価の伝達については、すぐるやホームページ、視覚支援パネル等の活用が有効であった。
- ・進路情報の提供については、どの学部の保護者も高い評価をしており、福祉サービス事業所説明会のようなより具体的でわかりやすい情報提供の仕方が求められている。
- ・「わからない」の割合が多かった項目については、保護者が直接見えない部分が多いので、引き続き情報発信の工夫や取組の可視化を心掛けることが必要である。ただ、限界もあるので、保護者に見える部分で評価をしていただけるよう設問の内容を検討する必要がある。
- ・進路指導における関係機関との連携については、高等部では「わからない」は少なく、肯定的な評価がほとんどである。小中学部でも、キャリアパスポートの活用により、現在の学習が将来につながっていることを意識してもらえるようにする。
- ・いじめの未然防止の取組として全校で「いいこと見つけ」を行っているが、今年度はまだ実施していないため、評価に反映しにくいにくいのではないか。昨年度の取組をホームページ等で見られるようにする。

生徒アンケートより

- ・生徒のアンケート結果では、教職員の様子や勤務態度等に関わる項目はどれも肯定的な評価の割合が80%以上と高く、生徒と教職員の間に信頼関係ができている。
- ・「わからない」の割合が多かった項目については、保護者と教職員の話になりがちで、生徒が理解できるように十分な説明がされていないのではないか。特に個別の教育支援計画については、自分が頑張っていることや目標とすること等について、もっとしっかり話を聞いたい、自分の思いを聞いてほしいという気持ちが強いのではないか。今後も引き続き、生徒を真ん中に懇談等で丁寧に話をしていく。
- ・生徒が理解しやすく、答えやすい設問の内容にすると、成果と課題がもっと明確になるのではないか。